掲載情報：2026/09/26 読売東京 朝刊 道社B 12版 24頁

# 家庭環境問わず 学習機会

## 光と愛の事業団助成

### 室蘭のNPO 支援充実へ 端末導入



子どもたちに学習のアドバイスをする室蘭工業大の学生（16日、室蘭市で）

子どもたちの健全な育成に向けて取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」で、今年度の助成団体に室蘭市のNPO法人「くるくるネット」が選ばれた。同法人は助成金40万円でタブレット端末を導入し、個別学習支援を充実させる考えだ。

水曜の夕方、同市知利別　パソコンやノートを広げて町の住宅街にある愛称「ク　自習していた。アドバイスルハウス」では小中学生が　するのはボランティアの室蘭工業大の学生。「できるだけ話しかけて（学習の習熟度を）確認するようにしています」と話す。

同法人は2004年設立。金曜の午後から夜間と、土曜の昼はスタッフやボランティア約10人が子ども食堂や相談支援などを行っていて、小学生から高校生まで20人ほどが訪れる。水曜は学習に向き合う「集中タイム」を開いている。

同法人は経済的困難や不登校などの背景を持つ子どもたちが、家庭環境に左右されない学習機会を作ろうと取り組む。力を貸してくれているのが室蘭工業大の学生たちだ。

近年は学習教材のデジタル化に追いついていないという。このため同法人は助成金を活用してタブレット端末5台を導入し、一度に5人程度が同時に個別学習できる環境を整えるほか、学習用机と椅子の整備、ボランティア向けの研修などを行う予定だ。

鳥山晃理事長(51)は「（タブレットを使って）テスト前に家で勉強できない子どもたちにAI（人工知能）を活用した学習法を提供したい」と述べた。



出力日時：26年09月28日11時18分47秒

掲載情報：2026/09/25 読売東京 朝刊 宮城2 13版 24頁

（第3種郵便物認可）　2026年（令和8年）9月25日（金曜日）　読　賣　新　聞

# 子ども育成2団体助成

読売光と愛の事業団は、「子ども育成支援事業」の助成先に一般社団法人「プレーワーカーズ」（名取市）とNPO法人「チャイルドラインみやぎ」（仙台市青葉区）の2団体を選んだ。子どもの健全育成に取り組む団体を支援する事業で、両団体には各50万円が贈られ、人件費や通信費などに充てられる。

## 自由な居場所提供

### プレーワーカーズ（名取市）



年季の入った看板を手にする代表の須永さん

名取市の一軒家を借りて、子どもらが自由に過ごせる場所を提供している。名称は「子どもの居場所○○（まる）」。代表の須永力さん（62）は「居場所を型にはめたくない。子ども自身がそれぞれ名付けてくれれば」という願いを込めたという。

須永さんは大学時代、遊び場づくりを行う団体に所属。そこで目の当たりにしたのは、不登校や非行に走る子、受験勉強に追われる子……。強い疑問を感じた。阪神・淡路大震災の支援で神戸入りした際は、災害時に子どもの居場所がなくなると実感した。

東日本大震災の支援で、ロープや木材などで作った遊び場づくりを各地で開催。2015年のプレーワーカーズ設立以前も含めて、通算2000回ほど行ってきた。

「○○」は17年から運営を始めた。室内には玩具やホワイトボードを用意し、広々とした庭も整備。週1日ほど開催し、1日約10人が来所している。大切にしているのは子どもの声を拾うこと。行動や発言に注意しつつ、不意に話してくれるのを待つ。

須永さんは「家庭状況や立場に関係のない子どもの居場所を作っていきたい」と話している。

## 家、職探し 自立支援

### チャイルドラインみやぎ（仙台市）



生活上の困難を抱えた若者の自立を支援するチャイルドラインみやぎ代表理事の小林さん

代表理事を務める小林純子さん（75）が2001年、「子どもが生き生きできる社会を作りたい」と考えて設立した。いじめや虐待、育児放棄で苦しむ子どもを対象に、電話やチャットによる相談業務を担い、これまで約5万5000件の相談に応じてきた。

小林さんは相談に乗る中で、幼い頃に受けた虐待などで成長しても苦しむ若者が多いことに気づいた。対人関係や学力に困難が生じ、養護施設を退所後に社会になじめず、仕事をすぐやめてしまったり、引きこもってしまったりする若者が目立った。

「相談に乗るだけではなく、若者が社会で力を発揮できるように後押ししたい」と考えて、16年から直接、自立を支援する活動を始めた。家探しや就職先の紹介、役所への書類提出の手伝いなどをするほか、金銭管理やビジネスマナーなどの学習会を施設に直接出向いて開催し、社会生活をスムーズに送れるよう支えている。

支援対象として登録されているのは現在18～28歳の約100人。小林さんは「親の支援を受けられない若者を一人でも普通の生活ができるように、支援を続けていきたい」と話す。

### ○郷土力士星取表●　12日目

幕下
三段目

| | | |
|---|---|---|
| ■■■■■■■■■ | 大 | 畑 |
| ○○○○○■■■■ | 安 | 大翔 |
| ●●●●●●●●● | 東 | 華山 |

## 仙台市況

### 仙台市食肉市場（枠付きキロ・円）

| | A5 | A4 | A3 | A2 | A1 |
|---|---|---|---|---|---|
| 和牛（雄） | 2744 | 1879 | 1836 | 1735 | — |
| 同去勢牛 | 2731 | — | — | — | — |
| | B5 | B4 | B3 | B2 | B1 |
| 乳牛（雄） | — | — | — | — | — |
| 同去勢牛 | — | — | — | — | — |
| | 極上 | 上 | 中 | 並 | 等外 |
| 豚（高値） | — | 624 | 603 | 594 | — |
| 同（安値） | — | 596 | 426 | 430 | — |
| 同（平均） | — | 610 | 574 | 547 | — |

| | 上場頭数 | 25日上場頭数 |
|---|---|---|
| 牛 | 50 | 17 |
| 豚 | 69 | 170 |

### 青果

（仙台中央卸売市場）

（円内数字は取引単位のキロ数）
（産地名のないのは県内物）

| | 高値 | 安値 |
|---|---|---|
| ダイコン L ⑱（青森） | 2160 | 1296 |
| ニンジン M ㉔（北海道） | 1836 | 1620 |
| ゴボウ M ④（青森） | 1080 | 648 |
| ハクサイ 4玉 ⑫（長野） | — | — |
| キャベツ L ⑱（岩手） | — | — |
| ホウレンソウ M 0.17 | — | — |

### 魚類

（仙台中央卸売市場・キロ・地名のないのは県内港水揚げ）

入荷 49t

| | 高値 | 安値 |
|---|---|---|
| ヒラメ | 3780 | 3024 |
| マコガレイ | — | — |
| マコガレイ（北海道） | — | — |
| キチジ（北海道） | 6480 | 5940 |



出力日時：26年09月25日09時58分39秒

掲載情報：2026/09/25 読売東京 朝刊 福島2 12版 24頁

（第3種郵便物認可）　2026年(令和8年)9月25日（金曜日）

# ひとり親世帯へ 食の支援

## 光と愛の事業団 福島のNPOに助成

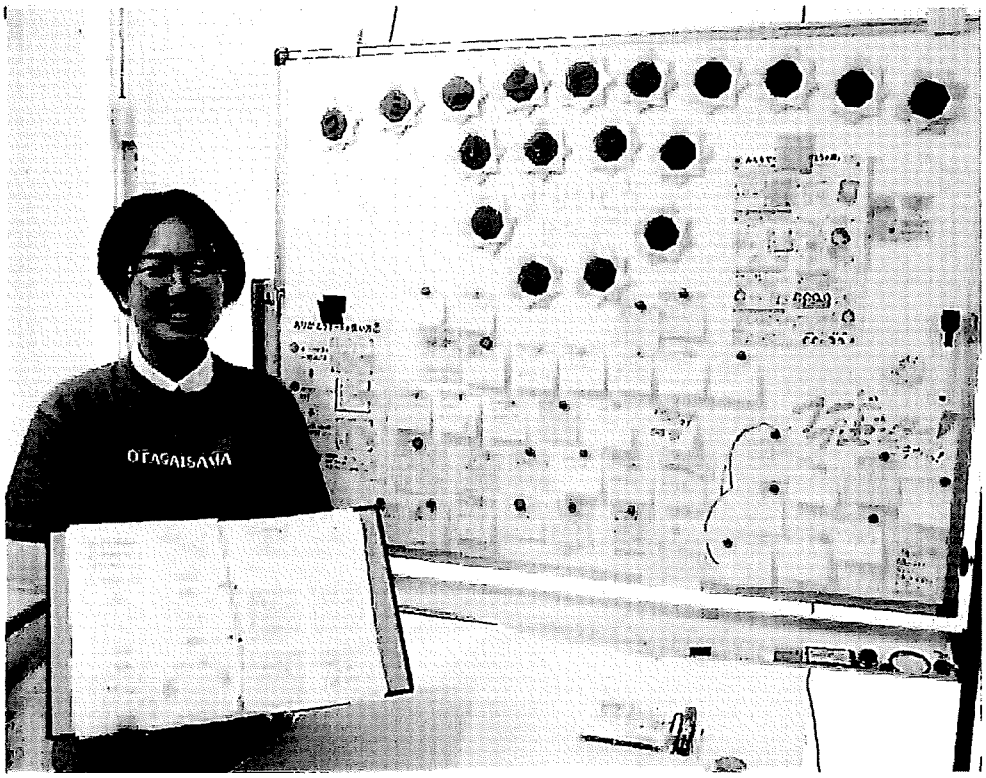
子どもたちの健全な育成に向けて取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」の助成団体に今年度、福島市のNPO法人「チームふくしま」が選ばれた。助成金35万円は、利用者に提供する弁当や食品の購入費などに活用する。

同法人は2022年2月から、ひとり親世帯や困窮世帯を対象に食料品や生活必需品を提供している。夏休みにはバーベキュー、冬にはクリスマス会を開催し、子どもたちに思い出を作ってもらおうと活動している。

活動拠点となる「コミュニティフリッジひまわり」は市内のとあるアパートの一室にある。棚には米やパスタなどの食料品、文具や本などが陳列され、ほとんどは企業や個人から寄付されたものだ。週2日開設され、1日あたり約20世帯が利用しているという。

フリッジの運営を担当している山田沙也加さん(25)は「スタッフが常駐せず、入室も1世帯ずつのため、利用の心理的ハードルが低い」と、人目を気にせず利用できる点が特徴だという。現在は130世帯以上が利用登録しており、室内には利用者からの「ありがとうございます。お米助かります」といった感謝のメッセージが紙に書かれ、ホワイトボードやファイルにびっしりと貼られている。

山田さんは「物価高が進む中、周りに相談できない家庭もある」と話す。複雑な事情を抱えた人のために、目立たないように手をさしのべる「見えない優しさ」で救っていきたいと願っている。




利用者からのメッセージが貼られたボードの前で取り組みについて説明する山田さん（11日、福島市で）



出力日時：26年09月25日09時51分29秒

掲載情報：2026/10/11 読売東京 朝刊 埼玉２ 13セ 18頁

# さいたまの団体を助成

## 光と愛「子ども育成事業」



読売光と愛の事業団は、今年度の「子ども育成支援事業」の助成先として、県内から「Ｈａｌｔｅｎ・未来力研究所」（さいたま市北区）を選んだ。同事業は子どもの健全育成に取り組む団体を支援するもので、同団体が運営する無料の学習塾や「子ども食堂」の経費などに助成金35万円が充てられる。

同団体の学習塾には、ひとり親家庭や多子世帯などで経済的に困窮していたり、自宅に十分な学習環境がなかったりする子どもたちが通う。

週２回の学習支援のほか、土曜日は月に2回、昼食を振る舞う子ども食堂を開く。社会教育の一環として、秩父市のダムを見学する合宿も無料で実施している。

団体代表の飯田洋一さん(59)は「（子どもたちには）自分のやりたいことを諦めず、追い求める力を自然に培ってほしい」と活動への思いを語る。

飯田さんは塾講師を務めた経験がある。転職先の職業訓練校では困窮世帯の子どもたちとふれ合う機会もあり、早い段階からの学習支援や進路指導の必要性を実感したという。無料の学習塾は元高校教諭らボランティアの講師を10人集めて始め、小学校から高校までの全科目に対応しているという。

８日に勉強していた母子家庭の高校３年の女子生徒(18)は「大学で海洋学を学び、世界中のクラゲの生態を研究したい。この塾のおかげで安心して受験に取り組める」と笑顔を見せた。

## 困窮世帯へ無料学習支援

学習のポイントを教える飯田さん（奥）（さいたま市浦和区で）



出力日時：26年10月13日11時12分58秒

掲載情報：2026/09/20 読売東京 朝刊 山梨2 12版 20頁

# NPO「ぐんないや」に助成

## 一人親世帯の食を支援

### 光と愛の事業団

読売光と愛の事業団が創設した「子ども育成支援事業」の今年度助成先の一つに、都留市のNPO法人「ぐんないや―織 syoku―」が選ばれた。事業は、子どもの健全育成に取り組む団体を支援するもので、助成金50万円は主に一人親世帯向けに食料品を無償で配布したり、弁当を安価で販売したりする同法人の活動費に充てられる予定だ。

ぐんないやの活動拠点、同市夏狩の寺「種月山 耕雲院」の玄関前で18日、副住職で同法人代表の河口智賢さん(48)が、一人親世帯の人たちにレトルト食品や乾麺などを配布。「重いので気をつけてくださいね」と声をかけた。食料品を受け取った西桂町の40歳代女性は子ども2人を育てており、「食料品の価格が軒並み上がる中、本当にありがたい」と感謝した。

2022年4月に設立されたぐんないや。郡内地域の一人親世帯を対象に、米やレトルト食品を無償で配り、貧困家庭の子ども支援に取り組んでいる。また都留文科大の学生と連携し、弁当を安価で販売。地域の子育て世帯なら誰でも利用できる子ども食堂の運営にも取り組む。

同寺出身の河口さんが子どもの支援に目を向けるきっかけとなったのは、東日本大震災の発生だった。僧侶として現地入りし、被災者から悩みを聴く傾聴ボランティアを重ねた。「亡くなった人のためだけでなく、生きている人、特に地域の未来を担う子どもたちのために、僧侶として何かできないか」と考えるようになった。

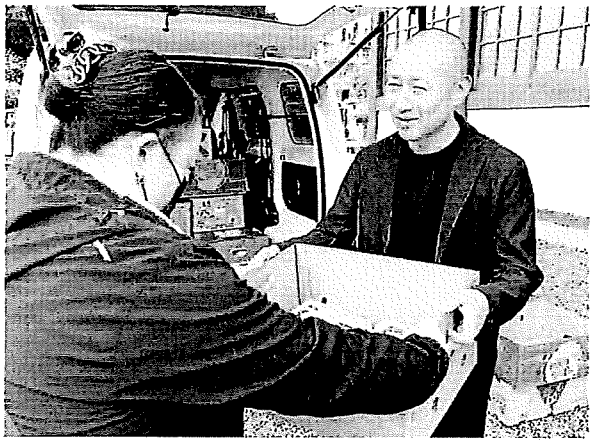
「檀家にいただいた食材を使わないか」。都留市で独自に子ども食堂を運営していた都留文科大の学生を誘い、16年に前身となる団体を設立。翌17年から、地域に住む子どもと保護者が利用できる食堂を、月に1度の頻度で始めた。

利用者は当初20人ほどで少なかった。そこで、学校や市に活動の周知を依頼。口コミでも知られるようになり、利用者数はコロナ禍前の19年までに毎月およそ100人に上った。コロナ禍では食堂の運営が困難となり、弁当を安価で販売。現在は子ども食堂を再開しており、弁当は月約200食分を売る。

活動費は有志からの寄付だけでは賄えず、河口さんも負担している。励みになるのは利用者の感謝の言葉だ。弁当を受け取りに来たあるシングルマザーから「仕事が忙しく子どもにつらくあたってしまうことがある。弁当のおかげで久しぶりに子どもとゆっくり夕飯の時間を楽しめた」と言われ、うれしい気持ちがこみ上げた。

法人名の「織」には、活動に賛同して食品を寄贈してくれる支援者との縁の「横糸」と、支援への思いの「縦糸」を組み合わせ、地域で盛んに製造された郡内織のように丈夫な支援体制を作りたいとの願いが込められているという。

「最近は小学生の時に食堂を利用していた子どもが運営の手伝いに来てくれるようになった」と笑顔で話す河口さん。「未来を担う地元の子どものための活動を続けていきたい」と決意を新たにしている。





▶ 弁当は安価で販売(2日、都留市で)
▲ 女性に食品を手渡す河口さん(18日、都留市で)



出力日時：26年09月24日16時30分26秒

掲載情報：2026/09/29 読売中部 朝刊 岐阜2 12版 20頁

# 放課後に子どもの居場所

## 光と愛 助成団体に選出

### 安八のNPO

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」で、今年度の助成先団体に安八町のNPO法人「かがやけ安八」が選ばれた。同法人は助成金35万円を子ども食堂や宅配弁当の食材費などに充てる考えだ。（浜島拓也）



「駄菓子屋」のコーナーで品定めをする子どもたち（安八町で）



NPO法人「かがやけ安八」の辻理事長

こんにちは――。

同法人が安八町氷取で運営する「みのむしハウスあんぱち」には、自宅にランドセルを置いた子どもたちが続々と集まってくる。みのむしハウスは、第4土曜日に子ども食堂になるが、平日には、駄菓子屋や遊び場を併設した子どもの居場所として、近隣の児童らが入れ代わり訪れる。木造平屋建て住宅を改造した昭和レトロな建物内には約800種類の駄菓子が所狭しと置かれており、硬貨を握りしめた子どもたちは「どれにしようかな」と目を輝かせて品定めをしている。

駄菓子屋の奥には大画面のモニターが1台置かれ、子どもたちが雑談やゲームに興じる。カウンターには、ホットドッグやおにぎりなどの軽食が置かれ、無料で食べられる。また、別棟のプレハブ小屋は、中高生が音楽やパソコンを楽しむことができる。幹線道路と東海道新幹線の高架に挟まれていることで、隣家への騒音に対する心配はないという。

みのむしハウス常連の高校1年の男子生徒(16)は「ここに来ると、必ず知った子やスタッフがいるのでホッとする。僕はこのハウスで育ったようなもの」と笑顔を見せる。施設長の石川真奈美さん(53)は「ハウスにいる子どもたちが楽しそうで、表情が生き生きしているのがうれしい」と話す。

同法人は2018年11月に設立。安八町のほか、大垣市墨俣町でも「みのむしハウス　すのまた」を運営している。子どもたちの支援事業を展開する一方、法人の財政基盤の柱として高齢者家庭への弁当宅配事業なども手がけている。

同法人の辻直人理事長(61)は「高い意識を持って、社会貢献するNPO法人の活動を継続するためにも、法人の財政基盤強化は重要だ」と話した。

## リンゴ配布で 交通安全啓発

飛騨署

飛騨署は24日、飛騨市神岡町夕陽ヶ丘の道の駅スカイドーム神岡の駐車場で、ドライバーに地元産のリンゴを配布しながら交通安全を呼びかける啓発運動を行った。



交通安全啓発のリンゴを受け取る観光客ら（飛騨市で）

秋の全国交通安全運動の一環。同署員や交通安全協会員など約20人が参加し、道の駅を訪れたドライバーに「交通マナーアップルということで、飛騨のリンゴです。日没が早くなるので、ライトの早期点灯など運転に注意してください」と声をかけ、リンゴと啓発グッズを手渡していた。

同署管内では昨年、人身事故が16件発生し、1人が死亡した。今年は今月23日までに8件の人身事故が起きているが、死者は出ていない。



出力日時：26年09月29日09時57分35秒

掲載情報：2026/09/23 読売大阪 朝刊 河内 13セ 21頁

# 物心両面で育児支援

## しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西



「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西」の枝村理事長（右）と運営スタッフたち（大阪市北区で）

「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西」は、1984年からの任意団体での活動を経て、2006年にNPO法人として発足した。理事長で社会福祉士の枝村たつ江さん(74)を始めスタッフ17人で運営し、会員は離婚や死別、非婚のシングルマザーや支援者ら約450人。育児や仕事の悩み相談と生活物資の支援、交流会や親子で楽しむ自然体験などのイベントに取り組んでいる。

「コロナ禍以降、シングルマザーの生活は一層苦しくなった」と枝村さんは訴える。非正規で働く人が多い上に、コロナ禍の影響で失業して貧困に陥り心身に不調をきたす人や、物価の高騰で日々の食事に困る家庭が増えたという。

困窮家庭への緊急支援や、学校給食がない夏休みと冬休みの支援として、企業や団体、個人からの寄付で用意した米やパスタ、レトルト食品などを届けている。昨年度はのべ305世帯を支援。事業団の助成金20万円は今秋から冬休みに提供する食料の購入費や送料などに充てる。

支援を受けた母親から「食事の心配が少し軽くなり、子どもと向き合う時間や心の余裕が持てた」と感謝の声が届く。枝村さんは寄付を広く呼びかけるなどして「当座しのぎでなく、安心して暮らせるよう継続した支援をしたい」と話す。

---

# 光と愛 子ども育成事業
# 府内2団体助成

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」の助成先に、府内からは今年度、大阪市北区で活動するNPO法人「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西」と、同市西成区の一般財団法人「ヒューマンライツ協会」が選ばれた。助成金は主に、ひとり親家庭への食料支援や子どもの体験格差の是正に活用される。（満田育子、山内浩平）

---

# 西成の体験格差是正

## ヒューマンライツ協会




子どもの体験格差をなくそうと取り組む笹川さん（右、大阪市西成区で）

「ヒューマンライツ協会」は、差別のない社会の実現に向け、人権問題の啓発などを行っている。活動の一環として、大阪市西成区の「にしなり隣保館ゆ～とあい」を拠点に、子どもたちが読書や調理などを体験する機会を創出している。

同区は生活保護の保護率が大阪市内で最も高く、貧困を理由に子どもたちの間で体験格差が生まれているという。

子育て・教育事業統括の笹川勝正さん(44)は「家庭の状況によって、将来希望する仕事ができなくなることがないようにしたい」と話す。毎週土曜日に無料で開く体験活動は地域の小学生らの居場所にもなっている。内容は読書や調理、農作業など週ごとに異なる。

「子どもが経験を積む大切さを保護者にも考えてほしい」と、親子で参加できる理科の実験や工作、クリスマス会なども企画する。事業団の助成金42万円は、外部講師を招くための費用や教材費などに充て、体験活動を充実させる予定だ。

笹川さんは「体験を通じて力強く生きる『自活力』をつけ、親になった時に支援に頼ることに慣れないでほしい」と願う。



出力日時：26年09月24日16時33分03秒

掲載情報：2026/09/30 読売大阪 朝刊 統京都 13版 23頁

# 府内から2団体助成

## 光と愛子ども育成支援

読売光と愛の事業団（東京）の今年度の子ども育成支援事業の助成先として、府内からは、ひとり親家庭の子どもの学習を支援する「学習支援会 ゆう」（西京区）と、子ども食堂を運営するNPO法人「東部錦林夢まちづくりの会」（右京区）が選ばれた。

学習支援に取り組む中川代表（中央、西京区で）



## ひとり親家庭 受験手助け

### 学習支援会 ゆう

2011年に設立。中川敏子代表(66)が、シングルマザーとして、子どもの高校受験の際、塾費用の捻出に苦労した経験から、同じ境遇の人に呼びかけて始めた。

ひとり親家庭の小学生から高校生までを対象に月3回、活動に協力してくれる元大学講師や元高校教師がマンツーマンで、苦手教科の対策をしたり、受験勉強をサポートしたりしている。

学校での学習についていけず不登校になったり、様々な家庭の事情で塾に行けなくなったりした子どもたちを見てきただけに、進学先決定の知らせが届くと一緒になって喜ぶ。やりがいを感じる瞬間という。

今年6、8月には約20世帯に米を届ける支援を始めた。今後拡大させるほか、子どもたちが社会に出た時に生かせるようにと、月1回の英会話講座の開催なども計画しているという。

保護者に対して研修会を開き、子どもの人権や、子どもを取り巻く状況について議論する場も設ける予定だ。家庭のSOSを察知する地域のセーフティーネットとしての役割を果たしたいとの思いも強い。

中川代表は、「学校以外の場所で大人と接することで、色んなことを吸収してほしい。一人で諦めず、前を向いていれば道が開けると感じてもらいたい」と活動に向き合う。

スタッフと献立について話し合う竹内代表（左、左京区で）




## 食堂運営10年目 成長支え

### 東部錦林夢まちづくりの会

2014年の設立。京都市内の小学校で調理師をしていた竹内志麻代表(56)が、十分な食事をとれず、長期間の休み明けに、やせて登校する子どもたちを見て「おなかいっぱい食べさせてあげたい」と、「こども食堂『夢』」を始めた。

原則週2回開き、18歳以下は無料。調理師らと1回あたり約50人分の食事を用意する。小中学生や親子連れ、高齢者も利用し、世代を超えた憩いの場になっているという。地域のつながりも生まれ、大学生が勉強を教えたり、一緒にキャンプに行ったりもする。

一方、「最近、あの子が暗い顔をしている」と連絡を受けることもあり、学校に相談することもしばしば。「同じ食卓を囲むからこそ、小さな異変に気づける」と竹内代表。

食堂を始めて10年目。最初から使い続ける食器は汚れが落ちにくくなっており「（助成金の使い道は）食材費が一番だけど、そろそろ食器も替えてあげたい」と願う。

運営は決して楽ではないが、元利用者が手伝いに来るなど、子どもたちの成長を見られることが一番の喜びだ。「みんなで助けあい、誰もが夢をかなえられる場所にしたい」。はつらつとした笑顔で子どもたちを見守り続ける。



出力日時：26年09月30日10時21分46秒

掲載情報：2026/09/26 読売大阪 朝刊 統和歌 13版 21頁

# 子ども食堂 笑顔咲かせて

## 「光と愛」支援事業助成先

## フードバンク和歌山を選出

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団による「子ども育成支援事業」の助成先に、県内からは今年度、御坊市で活動するNPO法人「フードバンク和歌山」が選ばれた。50万円の助成金は、ひとり親世帯や困窮家庭などを対象に開く子ども食堂の運営費（5か月分）に充てる。（岡本珠梨）



料理の準備を終えた鈴木さん（右）と大河内さん（御坊市で）

同法人は2015年設立。生活困窮者らに無償で食品を提供するフードバンクや「御坊こども食堂」の運営に取り組んできた。

御坊こども食堂は毎週土曜と第4日曜に同市湯川町の法人事務局で開催。18歳までの子どもは無料で、保護者らは1人500円で利用できる。子どもが過ごす間に家事や買い物などの時間が確保できることもあり、ひとり親世帯などに好評という。

食事は食堂責任者の鈴木教代さん(65)が中心に調理を担い、約20人が訪れる土曜は約25種、約50人が利用する日曜は約40種の料理を並べる。

子どもに大人気のソーセージやポテトに加え、アヒージョやタコライスなど、要望も聞きながら工夫を凝らし、なじみのない料理や特別感があるメニューも準備。12日はビュッフェ形式で並ぶ多彩な料理を、子どもたちが思い思いに皿へ盛りつけ、友達と一緒においしそうにほおばっていた。

鈴木さんによると、物価高に伴い、一定の量や種類を提供できなくなる時期があったという。「品数が少ないと来る子が減るほど、子どもたちは正直。品数が確保できれば喜んでくれるので、助成金は本当にありがたい」と笑顔を見せた。

設立当初からボランティアスタッフを務める大河内千賀さん(43)は「（子ども食堂を）卒業した後も顔を見せてくれる子どもたちがいる。成長を見守る楽しさをやりがいに、これからも活動を続けていきたい」と語った。


出力日時：26年09月28日11時16分56秒

掲載情報：2026/09/23 読売西部 朝刊 山口 12版 19頁

# 子どもに居場所 夢育む

## 下関のNPO「Kananowa」

## 勉強会や社会見学 食事提供も

## 光と愛の事業団 今年度助成

読売光と愛の事業団は、子どもの健全育成に取り組む団体を支援する「子ども育成支援事業」の今年度の助成先を決め、県内からは下関市のNPO法人「Kananowa（かなのわ）」が選ばれた。助成額は40万円で、子どもに提供する食事の費用などに役立てられる。（平木和頼）

同法人は下関市上新地町の事務所を拠点に「照子親（てらこや）」活動を展開。地元の文洋中校区の小中高校生の居場所として開放して寄り添い、食事を低額で提供するなどして保護者の負担軽減にも寄与している。スタッフは理事長の前田亜樹さん(48)ら7人。主婦や大学生ら約30人のボランティアや、約20の企業・団体の協力を得て、行政とも連携している。

平日は小学生向けの「放課後学習教室」（約40人）と、中学・高校生対象の「夜の勉強会」（約30人）を開き、夕食を提供。食事だけの利用を含めて連日、計120～150食を用意する。誕生日会やクリスマスイベントなども企画。夏休みの平日には学校の校舎を借り、昼食付きの小中学生向け勉強会も行っている。



「子どもたちの居場所づくりを進めていきたい」と語る前田さん

家庭環境の違いによる体験格差を減らそうと、自然体験や社会見学などの催しも開催。高校生の就職に関する体験教室は、企業とのマッチング機能も果たしている。

今年度からは新たに、空き家問題など地域課題を学ぶ取り組みをスタート。小学生が空き家の状況を確認したり、中学・高校生が空き家のリノベーション作業を体験したりしている。校区外の不登校児童・生徒の受け入れも始め、来年度は2倍の10人に増やすことを検討中だ。

一方、保護者同士がつながる場として年3回、夕食交流会を開催。参加者は毎回50～60人を数える。

同法人の活動資金については手作りパンの販売収益や、放課後学習教室など行政の委託事業の受託費、企業の寄付金、各種団体の助成金などで確保している。

前田さんは2016年、前身の任意団体を有志5人とともに設立した。きっかけは難病のため35歳で亡くなった市内の女性教諭の思いをまとめた本。今ある日々に感謝し、やりたいことを行動に移す大切さを訴える内容に感銘を受けた。

PTAの活動や研修を通し、寄り添いが必要な子どもや保護者が少なくないことを知っていたことから、自身も役に立ちたいと自宅を拠点に活動を始めた。地域密着で人の輪が広がって活動は徐々に拡大し、団体は23年12月にNPO法人化。24年1月には拠点も現在の事務所に移した。法人の名称は教諭の名前にちなみ、「佳奈の輪」から付けた。

助成決定について、前田さんは「活動の維持・拡充には資金が必要。子ども側の負担を増やさないためにも、助成金は本当にありがたい」と感謝。「これからも協力の輪を大切に、子どもたちが心から安心でき、夢も育める居場所づくりを地道に進めていきたい」と話している。



出力日時：26年09月24日16時31分46秒

掲載情報：2026/09/24 読売西部 朝刊 福岡 13セ 23頁

# 団地の子の居場所づくり

## 光と愛の事業団 飯塚の団体 助成

## 弁当配布や清掃 交流の場に

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」の助成先に、県内からは今年度、飯塚市の任意団体「明星寺団地コミュニティ活動企画」が選ばれた。団地内の児童、生徒の見守り活動を続けており、団体代表の小池正博さん(74)は「困っている子どもたちを支えたい」と思いを語る。

（井手祥雄）



訪れた児童にカツサンドなどを手渡す小池さん

「本日はふれあい給食サービスとなっています。予約いただいた方はお弁当を取りに来てください」

今月12日正午、小池さんのアナウンスが団地内に響いた。月に1、2回行っている市販の弁当などの配布。すぐに、意識付けの料金200円を持参した子どもたちが集会所に列を作った。この日の弁当はカツサンドと梨。「お母さんによろしくね」。受けとった子どもたちは「ありがとう」と笑みを浮かべた。

自治会長も務めている小池さんによると、明星寺団地は県営と市営の計24棟を中心に構成しており、約450世帯が暮らしているという。もともと自治会活動として2015年に幼児の母親向け子育てサロンを始めたことがベースとなり、21年、任意団体が発足した。

きっかけは「食べ物はないか」という子どもたちの切実な声だった。団地では親のネグレクトや、未成年者の喫煙、バイクを乗り回す行為が散見された。「このままではかわいそうだ」。団体の設立は子どもたちの居場所づくりが目的で、安否確認や非行の早期発見につなげることが根底にある。

主な活動は、市社会福祉協議会の支援を受けながら、子ども食堂の名目で行う弁当配布のほか、団地内のごみ拾い。福岡市のNPO法人「いるか」の協力を得て、カップラーメンや冷凍食品、生理用品といった物品も無償提供している。活動に参加するのは幼児から高校生まで25人ほど。子どもたちの心のよりどころとなっており、悩み相談を受けることもある。

児童らの親からは「情報交換ができ、団地内の交流、近所づきあいの場になっている」と好評を得ている。今回の助成額45万円も弁当配布の資金にあてる予定で、小池さんは「子どもたちを明るくし、立派な大人になる道筋をつけてやりたい」と話している。



出力日時：26年09月24日16時34分27秒

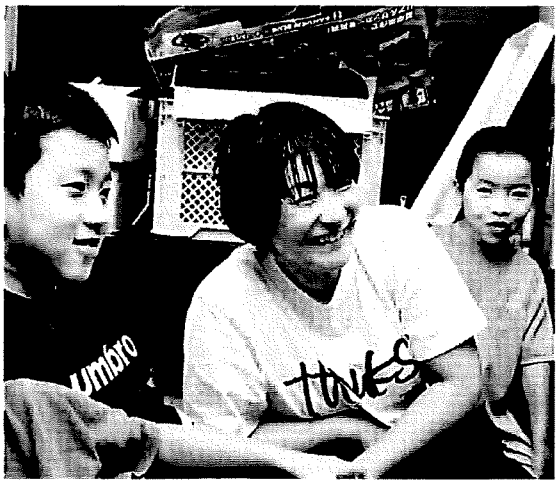
# 県内2団体を助成

## 光と愛の事業団

読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」で今年度、県内からNPO法人「ほのぼのクラブ」（水俣市）と「荒尾市ひとり親の会」（荒尾市）が選ばれた。助成金50万円は活動に必要な物資の購入などに充てられる。（白石一弘、高城琴音）

## 子どもの居場所づくり

「ヒカリトコカゲ」で子どもたちと談笑する原永さん



### ほのぼのクラブ（水俣市）

「ほのぼのクラブ」は2011年4月、水俣市の原永智子さん(54)らを中心に任意の育児サークルとして活動を始めた。母子支援の拡充を目指して22年11月に法人化。23年12月からは複合施設の空き店舗で、子どもたちの居場所「ヒカリトコカゲ」を運営している。子どもを照らす光と、心と体を休ませる木陰という意味を込めて名付けた。また、「トカゲ」には、苦しい環境でも生き残る力を身につけてほしいとの願いを込めたという。

毎週木曜と正月の三が日を除き、子どもが集まってくる。昨年度は1万2536人が過ごしたほか、290回の「こども食堂」を開いて5610人が利用した。参加者の8％はひとり親で、継続的な支援が必要な家庭が多いという。

課題は拠点の広域化で、原永さんは「市の中心部だけでなく各公民館単位で子どもたちの居場所をつくりたい」と意欲を語った。

## 食品配布し親子見守る

### 荒尾市ひとり親の会



配布する食品の準備をする会員（荒尾市ひとり親の会提供）

「ひとり親の会」は、シングルマザーらが安心して子育てできる地域づくりを目的に21年4月に設立した。当初は玉名郡の同種団体が運営を担っていたが、同会の会員として支援を受けていた安藤真利会長(41)らが「自分にもできることがないか」と考え、25年4月に独立した。

月1回程度、ひとり親世帯に乾麺やスープといった長期保存が可能な食品やごみ袋といった日用品を配布している。毎月配布することで、定期的に会員の様子を確認できるよう工夫。困った時に頼ってもらえるよう、堅苦しくない雰囲気作りを心がけ、配布の際には会員と雑談などもしているという。

会員の子ども同士の仲を深めてもらおうと、ハロウィーンやクリスマスに合わせたレクリエーションなども実施。安藤会長は、活動の全てが手探りだった運営開始からの1年半を振り返り、「会員が何を必要としているのか、アンケートなどでくみ取りながら支援を続けていきたい」と意気込んだ。

◇

子ども育成支援事業は、子どもの健全育成に取り組む団体を資金援助するもので、今年度は全国で17団体が助成対象に選ばれた。

## 余白

かつてJリーグでプレた元プロサッカー選手(39福岡地裁の法廷で窃盗罪告として証言台に立った。現役を退いているとえ、1m80超の長身にス姿でも分かる引き締まっ形には、かつて勝負の世身を置いていた一端が垣えた。

地元の強豪校に進学し校1年でU―16日本代表に選ばれた。「劣勢を打る正確なパス」「人生の